

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

アザミウマ類、コナジラミ類の施設栽培終了後の 野外への飛び出し防止対策の徹底について

施設栽培のキュウリやトマト等で発生したアザミウマ類及びコナジラミ類は、栽培終了後に施設外へ飛散すると野外で増殖し、その後、次作において再び施設内に侵入し、秋期の発生につながります。これらの害虫が媒介するウイルス病が産地で問題となっていることから、伝染環を断ち切るために、**栽培終了後にウイルス保毒虫を施設内で死滅させ、施設外へ「出さない」**ことが極めて重要です。

については、下記を参考に、栽培終了後には**ハウスの蒸し込みを確実に行う**などの対策を、**地域一体となって徹底する**よう生産者への指導をお願いします。

記

1. 発生状況

【キュウリ】5月19～20日の定期調査（5圃場）

- 1) アザミウマ類の発生株率は53.0%（平成18.3%）と平成より多かった（図1）。コナジラミ類の発生株率は16.0%（平成12.9%）と平成並であった（図1）。
- 2) コナジラミ類が媒介する退緑黄化病が3圃場で確認され、発病株率13.8%であった。アザミウマ類が媒介する黄化えそ病も1圃場で発生を認めた。

【トマト】5月18～20日の定期調査（6圃場）

- 1) コナジラミ類の発生株率は30.0%（平成18.5%）と平成よりやや多かった（図2）。
- 2) コナジラミ類が媒介する黄化葉巻病が4圃場で確認され、発病株率7.0%であった。

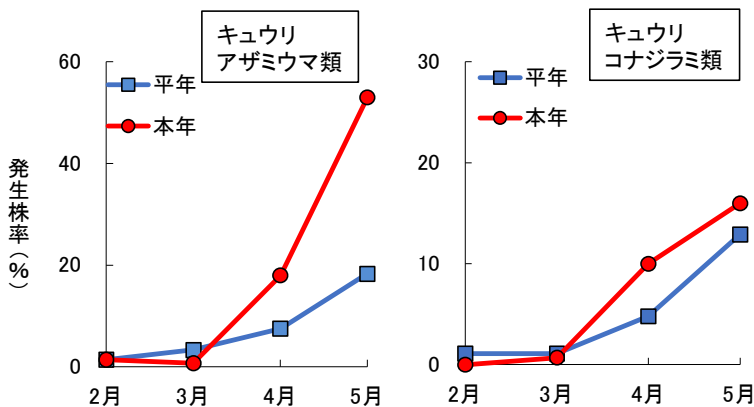


図1 キュウリでのアザミウマ類、コナジラミ類の発生推移

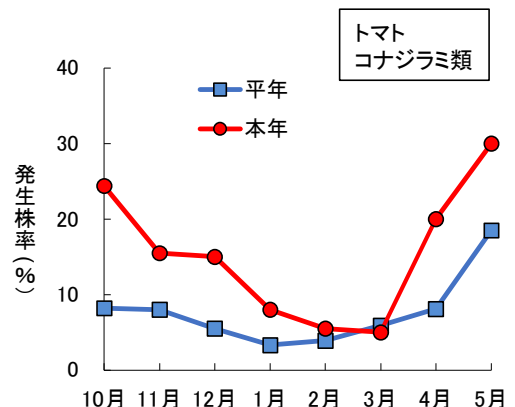


図2 トマトでのコナジラミ類の発生推移

2. 防除対策

- 1) アザミウマ類やコナジラミ類が施設から飛び出すと、野外で増殖し、次作の施設へ侵入する（図3）。これら害虫の確実な死滅と、ウイルス病罹病株を確実に枯死させるために、十分な期間を確保し、施設の密閉処理（蒸し込み）を必ず行う（図4）。
- 2) アザミウマ類やコナジラミ類は、キュウリ、トマトだけでなく、ナスなどの他の施設野菜類、花き類など多くの作物に寄生するため、地域全体で飛び出し防止等の対策を行う。
- 3) 施設内から飛び出したアザミウマ類やコナジラミ類は、近くの雑草などに寄生して増殖し、またいくつかの雑草はウイルスに感染することが分かっているため、増殖源又は感染源となるほ場周辺の雑草は徹底して除去する。



図3 アザミウマ類、コナジラミ類の主な生息場所（イメージ図）

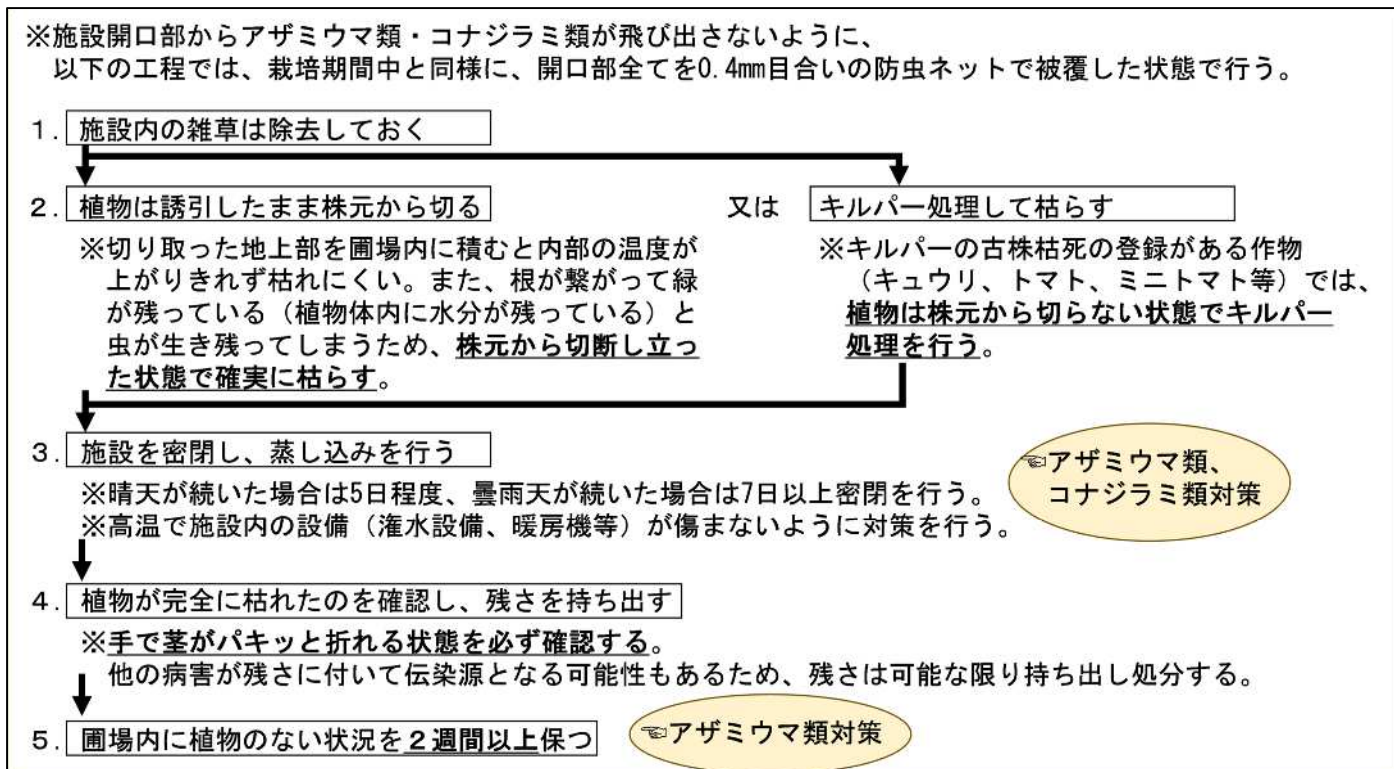


図4 施設の密閉処理（蒸し込み）の手順

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321899/index.html

